

「最初のクリスマス」

2015年04月16日

ルカによる福音書 2章15節～21節。天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話を不思議に思った。しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりでだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。

野宿していた羊飼いたちは天使から救い主・メシア誕生の大きな喜びの御告げを聞いた。布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子が、そのしるしである。そして、天の軍勢の神々しい「いと高き神に栄光、地に平和、御心に適う人に」という賛美を聞いた。貧しく、社会から疎外されていた羊飼いたちに救い主・メシア誕生が告げられた。

喜んだ羊飼いたちは「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合い、急いだ。行ってみると、マリアとヨセフの傍で飼葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。羊飼いたちは天使が告げた幼子の誕生の出来事を人々に伝えた。聞いた人々は彼らの話を不思議に思った。羊飼いたちは、天使の御告げ通りだったので、神を崇め、賛美した。クリスマスは「キリスト」と「マス(礼拝)」の合成語であるが、彼らが最初のクリスマス(キリスト礼拝)の榮譽に与った訳である。代々の教会は、羊飼いたちが最初に捧げたクリスマスを引き継ぎ、主イエスのご降誕を祝い続けている。

マリアは、これらの出来事を心に納め、思い巡らした。マリアがイエスを出産したことは間違いない。当時、十代の半ばで結婚していたので、彼女はナザレの15歳くらいのおとめであったろう。彼女は神への篤い信仰を持ち、思慮深い女性であった。子沢山の寡婦の苦労を経験しているが、イエスを育てた事実から、子どもたちの養育に心と知恵を尽くしたに違いない。思慮深いマリアを「思い巡らしていた」と表現している。

生まれて8日目、割礼を受け、天使ガブリエルから告げられた通り「イエス」と名付けられた。イエスは「神は救いである」という意味である。

クリスマスに演じるページェントは美しく、牧歌的に見えるが、ルカが記した降誕物語は背後に、悲しみ苦しむ者の姿があり、その者たちに神の救いの光が差し込んだ喜びで貫かれている。それは、人間が作る価値基準を逆転させる福音である。「マリアの賛歌」において、主イエスのご降誕の意味は、思い上がる者を打ち散らし、権力者をその座から引き降ろし、富める者を空腹にする、逆に身分の低い者を高く上げ、飢えた人々を良いもので満たすと歌っている。また、ローマの権力によって住民登録のために過酷な旅を強制され、その途中、宿も見つからず、家畜と共にいるような場所で主イエスは生まれた。更に、この救い主・メシアの誕生は、人間扱いをされていなかった羊飼いたちに知らされ、彼らが最初に、クリスマスを祝った。これらの記述は、そのまま主イエスの生涯を象徴している。降誕物語は、主イエスが現した福音の入り口なのである。